

2. ブラジル政治情勢（1月の出来事）

【内政】

（1）マナウス市における医療崩壊

昨年末より医療体制が逼迫していたアマゾナス州都マナウス市において、8日頃から新型コロナウイルス感染症患者向け酸素ボンベの不足が発生したことにより、多数の入院患者が死亡した。伯軍は、酸素ボンベの同市への輸送及び患者の他州都への緊急搬送を行った。

（2）地方財政支援法の成立

13日、ボルソナーロ大統領が地方財政支援法案を裁可し、同法律が成立した。これにより、全国各州及び各市町村は、今後9年間にわたり、計2,170億レアル相当の支援を連邦政府から受けることが可能となる。

（3）新型コロナ緊急使用ワクチンの認可

17日、国家衛生庁（ANVISA）は理事会を開催し、新型コロナウイルス感染症対策のための2つのワクチン（①中国シノバック社とサンパウロ州ブタンタン研究所の共同開発によるコロナバック及び②英アストラゼネカ社、オックスフォード大学及び伯オズワルドクルス財団（Fiocruz）の共同開発、印Serum製薬研究所によって製造されたワクチン）の緊急使用を承認した。

（4）ボルソナーロ政権の支持率

22日、ダッタフォーリャ社による世論調査の結果が発表され、政権支持率は31%に低下し、2020年6月以来7か月ぶりに不支持率（40%）を下回った。

（5）反政府デモの発生

（ア）23日、ブラジリア、サンパウロ市、リオデジャネイロ市等の主要都市において、左派政党及び労働組合等が反政府デモを実施し、ボルソナーロ大統領に対する弾劾の必要性を主張した。

（イ）24日、サンパウロ市及びリオデジャネイロ市等の主要都市において、ブラジル自由運動（MBL）や「街頭に出よ（Vem pra Rua）」等の団体が車列デモを行い、ボルソナーロ大統領の弾劾を要求した。

【外交】

（1）茂木外務大臣の訪問

8日、ブラジリアを訪問中の茂木外務大臣はボルソナーロ大統領を表敬した。また、アラウージョ外務大臣と日伯外相会談を行った後、アマゾン地域の生物

多様性の持続可能な利用に関するトメアス協力覚書、並びに、ニオブ及びグラフェンの生産及び利用に関する協力覚書に署名した。更に、両国政府間において、技術協力に関する3件の文書への署名が行われた。

(※詳細については下記の外務省ウェブサイトをご参照下さい。)

「茂木外務大臣のブラジル訪問」

https://www.mofa.go.jp/mofaj/la_c/sa/br/page1_000921.html

(2) ボルソナロ大統領によるバイデン米国大統領就任に対する祝意表明

20日、ボルソナロ大統領は、同日に就任したバイデン米国新大統領への祝意ツイートを発信した。ボルソナロ大統領は、伯米関係は長く堅固であり、民主主義及び個人の自由の擁護等の崇高な価値に基づいていることを強調し、両国の繁栄及び両国国民の幸福のために取り組むことに引き続き尽力していく旨述べた。

(3) アストラゼネカ社製新型コロナウイルス感染症ワクチンの到着

22日、オックスフォード大学とアストラゼネカ社の共同開発による新型コロナウイルス感染症ワクチン200万回分がインドからリオデジャネイロ空軍基地に到着した。

(4) アラウージョ外務大臣によるテレビ会談等への出席

アラウージョ外務大臣は、11日にグリアOECD事務総長、12日にサントス・シルヴァ・ポルトガル外相、13日にラーブ英外相、15日にトッド・ガイアナ外相、26日にボレルEU外務・安全保障政策上級代表との間でテレビ会談を行い、また、25日にゴンサレス・パラグアイ外相と電話会談を行った。

3. 新型コロナウイルス感染拡大に伴う諸外国からの入国制限

- (1) 8日、伯政府は、外国人（国籍不問）の入国を制限する措置につき、航空事業者等に対する措置を追加する旨の政令第651号を公布した。
- (2) 26日、伯政府は、外国人（国籍不問）の入国を制限する措置を延長し、南アフリカ共和国から入国する航空便及び渡航者に対する制限を追加する旨の政令第652号を公布した。

4. トピック

(1) オンライン新年会の開催

1月15日19時から19時20分まで、在ブラジル日本国大使館は、オンライン新年会を開催した。同イベントには、当地日系団体及び日本語学校の代表者

が、適切な感染症対策を実施しつつ対面にて参加するとともに、多くの方々がオンラインで視聴した。

同新年会においては、国歌演奏、山田大使による新年挨拶、鏡開きが行われた。山田大使は、ブラジルの日系社会による、新型コロナ禍における積極的な活動及び長年に渡るブラジル社会への多大なる貢献に改めて敬意を表するとともに、2021年の日伯関係及び日系社会の更なる発展への期待を述べた。また、日系社会と日本との連携及び協力を更に深めることが自らの目標である旨述べた。

(山田大使による新年挨拶全文は[こちら](#))



(2) 山田大使による連邦区 (DF) 保健局への医療用手袋贈呈式への出席

1月20日、日本大使館は連邦区 (DF) 保健局に対し医療従事者用の手袋4,000組を寄付し、山田大使は同保健局にて行われたその贈呈式に出席した。同贈呈式には、オクモト DF 保健局長の他、レイラ・バーホス連邦上院議員も出席した。

これらの手袋は、新型コロナウイルス対策に従事する医療関係者によって活用されるものであり、日本大使館として、DF 政府の新型コロナウイルス対策の推進を支援するもの。

日本政府は、新型コロナウイルス対策において今後も引き続きブラジルに協力していく。



(3) ブラジル日本商工会議所のオンライン新年会（在サンパウロ総）

1月22日、ブラジル日本商工会議所主催のオンライン新年会が開催され、村田俊典会頭をはじめとする同商工会議所幹部、山田大使、桑名総領事等が参加した。

オンライン新年会では、村田会頭及び山田大使が挨拶を行うとともに、桑名総領事が乾杯の音頭をとった。また、田中直毅・国際公共政策研究センター理事長より、「バイデンの米国の対外関与を決めるグリーン・ニューディールと対中姿勢」というテーマで講演（録画配信）が行われた。

